



# 地域と共に

Vol.70



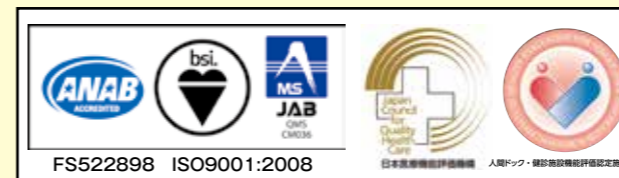
- 乳がん検診の勧め ～健康管理センターから～ 副センター長
- 日本マネジメント学会開催
- 第19回地域連携セミナー
- 院内講演会
- 駐車場がフルオープン
- 春の市民公開講座を開催いたします
- お問い合わせ

### 基本方針

1. **患者第1主義** 常に診療を受ける皆様の立場で考え誠実に行動します。
2. **安全確保** すべての診療現場で患者の皆様が安心できる環境を作り、安全で質の高い医療を提供します。
3. **社会貢献** 良質な医療提供を基本として積極的に社会に貢献をします。
4. **公正で透明性のある病院** 高い倫理観に基づき様々な情報を開示します。
5. **働きがいのある職場作り** 創造性、主体性を尊重しあい自由に働きやすい職場を実現します。



<http://www.sagaminojcho.go.jp>



<b>Security</b> 優れた安全対策で皆様を守ります。	<b>Speed</b> すべてに迅速な対応を心がけます。
<b>Service</b> 先進の医療を快適に提供します。	<b>Sympathy</b> 患者の皆様と想いを共有します。

## 駐車場がフルオープン

当院駐車場は、4月1日より68台増えて211台駐車可能となります。また、障害者用スペースが3台から7台へ、新たに思いやりスペースを2台増設し、9台の優先スペースを作りました。長期間ご迷惑をおかけいたしました。工事中はご理解・ご協力いただき、ありがとうございました。



5月29日（月）14時より当院講堂にて、春の市民公開講座として、「忍びよる動脈硬化による病気～その治療と予防法について～」をテーマに、循環器内科 山内医師による講演会を開催いたします。たくさんの皆様のご来院をお待ちしております。

桜の季節、年度替わりに伴い、当院でも各科で外来担当医師の変更があります。外来担当医表のご確認をよろしくお願いいたします。



お願い



## 相模野病院 健康管理センター

# 乳がん検診の勧め



40歳以上の女性には視触診とマンモグラフィをお勧めします

健康管理センター 副センター長 吉田 宗紀

近年、乳がんの患者さんが年々増加しています。統計によると生涯に乳がんを患う日本人女性は今や11人に1人とされています。乳がんになっても早く見つけて治療すれば、より高い確率で完全に治すことができます。しかし、我が国の乳がん検診の受診率は40%前後とされ、欧米の80%と比べて受診率が極端に低いのが現状です。厚生労働省では国民の乳がんの死亡率を下げるため、乳がん検診を強く推奨しています。ぜひ当健康管理センターを受診してください。

### (1) 乳がん罹患率と検診対象年齢（40歳以上）

全国がん罹患推計では、乳がんは30代で増加を始め、40歳から急増し40代後半でピークに達します。以後は少し減っただけですと横ばいです。歳をとったら乳がんにならないということはなく80歳でも40代前半と同じぐらいの発生があります。そのため、厚生労働省は40歳以上の女性すべてを対象に検診を勧めています。乳がんの原因は不明ですが、統計的に前述の年齢のほか、未婚あるいは出産していない、初潮が早い・閉経が遅い、閉経後に肥満になった、血縁者に乳がん患者がいるなどが乳がんの危険因子とされており、これに該当する方はますます検診が必要です。

### (2) 乳がん検診の検査法とそれぞれの特徴

乳がんの基本の症状は乳房内の腫瘍（しこり）です。これを見つける方法として、一般的に1) 視触診、2) マンモグラフィ（MMG）、3) 超音波検査の3つの検査が単独あるいは組み合わせて行われています。触診検査は乳房やわきの下を触って外からしこりを見つける方法です。一方、MMGは乳房全体を挟んで放射線撮影を行うもので、乳房の中のしこりや石灰化、引きつれなどの細かい変化がわかります。しかし、乳腺症のようなムラのある硬い乳腺では、触診は小さなしこりが分かり難かったり、MMGで乳腺のムラがしこりのように見えるなどの短所があります。超音波検査は乳腺のムラや硬さに関係なく小さいしこりを見つけられますが、探触子（プローブ）を乳房全体に丹念に当てていかないと病変を見逃すことがあります。このように各検査には一長一短があり、年齢や乳房の状態によってより適切な検査法を選択することが大切です。

### (3) 推奨される検診法（40歳以上、触診とMMGの併用、2年に1回）

以上から厚労省は40歳以上の女性に対して2年に1回の視触診とマンモグラフィ（MMG）の併用を勧めています。これを併用することで乳がんの死亡率が減ったことが統計的に証明されたからです。ただし、過去に視触診やMMGで異常所見があった方、判定が難しかった方は超音波検査が勧められます。また、上記の乳がんの危険因子のある方には毎年の検診が望まれます。なお、20～30歳代の方にはMMGは勧められません。若年者は乳腺が硬くMMGが不向きなうえ、もともと乳がんの発生が低い年代に余計な放射線被曝のリスクを冒すことはむしろ禁忌とされています。検診する場合は超音波検査を行ってください。

### (4) 当健康管理センターでの乳がん検診

乳がん検診の予約は直接当センターにお申し込みください。一般健診や人間ドックにオプションとして追加できます。他のがん検診と組み合わせたコースを利用することや単独で行うことも可能です。ご不明の点はセンターの受付にお問い合わせ下さい。

## 院内講演会

■ 2月6日開催 ■

JCHO湯布院病院院長 根橋良雄先生をお招きして、「熊本・大分地震の被災に基づく災害医療等について」の災害講演をしていただきました。災害時の貴重なご経験を伺い、災害時における工夫や注意点などを学びました。



根橋院長(右)、太井田院長(左)

## 第19回地域連携セミナー

■ 2月15日開催 ■

第1部「皮膚排泄ケア認定看護師の役割と活用」

「当院訪問看護ステーションの取り組み」

第2部「心房細動患者の地域連携パスの導入に向けて」

「最適なDOACの選択とは ～安心して服薬し続けるために～」



岩出先生



訪問看護師

セミナーは2部構成で行いました。第1部は、昨年10月にオープンした訪問看護ステーションと当院で活躍する認定看護師を紹介し、第2部では国立病院機構横浜医療センター岩出和徳先生をお招きし循環器セミナーを行いました。多くの先生、ケアマネージャーの方々には長時間にわたり参加していただき、ありがとうございました。

## 日本マネジメント学会開催

■ 3月4日開催 ■

日本医療マネジメント学会 第16回神奈川支部学術集会在、ワークピア横浜にて開催されました。日本医療安全調査機構 常務理事 木村壮介先生による特別講演「医療事故調査制度発足1年間の総括」など、医療の質と安全の再考について多くの発表がありました。今回は当院が主催し、無事終えることが出来ました。ご参加いただいた皆さま、ありがとうございました。

